

## 2つのグループのイシガレイ

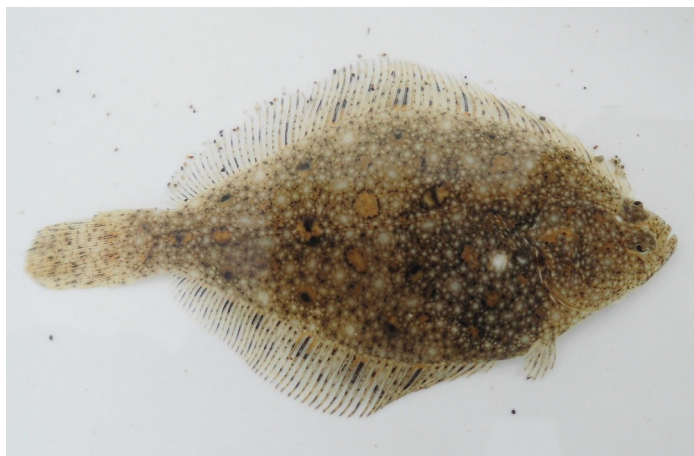
### ■イシガレイ稚魚は2つのグループに分けられる

今回の調査では、潟湖内でも多くのイシガレイの稚魚を採集できた (Table.1)。導流堤に設置された水門により、潟湖内と河口の通水は確保されていると思われる。採集した個体は全長5.0cm以下の個体と、全長6.0cm以上の個体に分けられる。小型の個体は最近外海から干潟に入ってきた個体、大型の個体は早めに干潟に入ってから成長し、これから外海へ移動する個体ではないだろうか。

なお、今回の調査では左側に目がある個体を河口で1匹 (全長3.5cm)、水門付近で4匹 (全長3.0cm1匹, 5.5cm3匹)、潟湖内で1匹 (全長7.5cm) 採集した (Fig.3)。神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏氏にお伺いしたところ、背鰭・臀鰭にある黒い斑紋の様子からヌマガレイとの交雑個体の可能性が高いとご教示いただいた。これらの個体はTable.1のデータには入れていない。

全長	2.0cm	2.5cm	3.0cm	3.5cm	4.0cm	4.5cm	5.0cm	5.5cm	6.0cm	6.5cm	7.0cm	7.5cm	8.0cm	8.5cm	平均全長
河口	5		1		4	1	2						1		3.7cm
水門付近 (河口側)		1		2	2	1	2				1	1			4.7cm
潟湖内									3	1	1	2	1	1	7.0cm

(Table.1 イシガレイの全長と採集個体数)



(Fig.1 水門付近で採集したイシガレイ)



(Fig.2 潟湖内で採集したイシガレイ) 左側に目のある個体も含む



(Fig.3 目の位置の比較)